

第52回 理事会議事録

1. 開催日 2026年5月16日(土) 14:00~17:20
2. 開催場所 各自宅等にて Zoom 会議に参加する。
3. 理事 23 名中 16 名が出席し定足数を満たした。
(出席) 村越真 鹿島田浩二 高島和宏 信原靖 桑早穂 石澤俊崇 今泉知也 小林力
吉村年史 加納尚子 野中好夫 大野徳子 市橋国之 田中紅音 石川翔太
野村善弥
(欠席) 野田聖子 前田(大里)真理子 中野智美 浴本悠貴 千葉望央 川瀬智尋
犬尾英里子
監事: 齋藤和助 中川義宏 齋藤宏顕
顧問: 愛場庸雅 杉山隆司
オブザーバー: 美濃部遼 湊菜々子 (日本学連選出理事候補)
事務局: 小野賢二 高島恵美子 (記録)
議長: 定款 3 2 条により、村越副会長を指名した。
・村越副会長は議長就任にあたり、表決には加わらないこと、但し賛否同数の際に表決を行うことを表明した。従って今理事会での村越副会長の表決は全議案棄権票として扱う。

審議事項

第1号議案 2025 年度事業報告書、収支決算書、の承認及び内部監査報告(村越副会長、監事)

- 1) 2025 年度事業報告書について事務局から説明があり、2025 年度の特記事項として、全日本大会ミドル競技における事故の経緯、国際大会 3 件の開催、傷害保険の契約切り替え等が報告された。
- 2) 収支決算書について事務局から説明があり、収入・支出共に前年度から倍増し、特に事業費の支出が大きく、8,193 千円のマイナスとなったこと、寄附金・助成金収入が大きく伸びたことが報告された。続いて今泉理事から、正味財産増減計算書の収支分析について次の報告があった。
 - ・収支がマイナスとなった要因は主に SWOC の赤字であり、2025 年度限定の事情による。
 - ・平常の事業・管理経費は組織育成費の削減、保険の受益者負の導入、人件費を含む管理費の削減等により 552 千円の黒字であったが、項目によっては収支が悪化している部分もあるため経常的な収支の改善が必要である。
- 3) 内部監査報告として以下の通り報告・指摘があった。(齋藤和助監事・齋藤宏顕監事・中川義宏監事)
 - ＜会計監査報告＞
 - ・財産目録・残高が問題なく一致することを確認した。
 - ・委員会の資金管理は全て JOA の中に口座を設けて管理することが望ましい。
 - ＜業務監査報告＞
 - ・年度を超えた指導者登録料の預かり金を適切に各事業へ分類すること。
 - ・会員支援給付金の使途・残高を明確化が必要。
 - ・議事録の提出がない委員会があるため、担当理事には改善をお願いしたい。
 - ・委員長交代時の引継の徹底をお願いしたい。
 - ・寄附金の増加に伴い、事務局には適正な管理をお願いしたい。
 - ・会員支援給付金のリストの整備。
 - ・理事会や日常のメーリングリスト等で活発な議論が行われ、JOA の発展のため尽力されていることは非常に良い状態である。

以上、審議の結果、第1号議案について出席理事総数16名のうち賛成15名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

第2号議案 2026年(～2027年)度各委員会委員の承認(村越代表理事副会長)

委員会委員候補者選考委員会の結果、資料の通り委員・委員長を提案する旨説明があった。

以上、審議の結果、第2号議案について出席理事総数16名のうち賛成15名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

第3号議案 2026年度全日本スプリント競技責任者業務委託発注の承認(石澤業務執行理事)

競技責任者の業務委託選定について、大会運営の経験・実績を重視し、見積り額では若干上回る村田氏を選定すること、及び村田氏が2026年度JOAスプリント委員会委員であるため、利益相反の観点から理事会での承認が必要であることの説明があった。

質疑応答があり、今後は見積書で比較できるよう、項目を提示したフォーマットを検討することとなった。

以上、審議の結果、第3号議案について出席理事総数16名のうち賛成14名、反対0名、棄権2名により原案を承認した。

第4号議案 日本オリエンテーリング競技規則改正の承認(高島業務執行理事)

IOFの規則改正に伴う定例の改正であること、Bulletinのカタカナ表記を原音に近い「ブレティン」に統一することが説明された。

IOF規則で改正される条文のうち、IOF15.(地図区域には、全ての合理的なルート選択が含まれていなければならない。)については、国内トレインの特徴により地図サイズ制限を守れなくなる危険性があるという理由から、国内規則では採用しない旨説明があった。

IOF15.の採否について議論があり、競技の公平性に係る観点から国際標準とするのが望ましいとの意見があった。今回は原案の通りとするが、今後、規則またはガイドラインに盛り込めるよう競技委員会で検討することとなった。

以上、審議の結果、第4号議案について出席理事総数16名のうち賛成15名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

第5号議案 全日本ミドル・ロング大会の冠スポンサー権に関する経緯等について(今泉業務執行理事)

・株式会社アークコミュニケーションズへの2025年度寄付金300万円返金の承認

・高額寄附特典の付与について、運用ルールを見直す事の承認(第49理事会決議事項)

JOA理事が代表取締役を務める株式会社アークコミュニケーションズからの寄附に対し、特典として全日本大会のネーミングライツ権を付与したことについて、ネーミングライツは一般に広告取引(商取引)と認められ利益相反に当たるため、以下の対応を行う旨説明があった。

- (1)株式会社アークコミュニケーションズと協議のうえ、同社に対する「全日本大会の冠スポンサー権」の付与を撤回するとともに、寄附金を返金する。
- (2)高額寄附特典の付与について、運用ルールを見直す。
- (3)役員員に対して、改めて利益相反取引についての啓発活動を行う。
- (4)一方で、高額寄附特典のトリガーとなったJOAの財政健全化については、引き続き喫緊の課題であることから、その対策について総務委員会を中心に議論を加速させるとともに、寄附やスポンサー募集についても、手続の透明性を担保しつつ継続して行っていく。

以上、審議の結果、第 5 号議案について出席理事総数16 名のうち賛成 15 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

第6号議案 令和 8 年度ふるさと新宿区わがまち応援寄附金団体支援金の使用用途の承認(今泉業務執行理事)

ふるさと新宿区わがまち応援寄附金団体支援金(以下、ふるさと納税寄附金)の使用用途について、令和 8 年度スポーツ振興くじ助成金を申請した事業のうち、採択されなかった次の事業に使用したい旨説明があった

オリエンテーリング海外コーチ招聘による練習会及び講習会事業:77,000 円

以上、審議の結果、第 6 号議案について出席理事総数16 名のうち賛成 15 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

第 7 号議案 日本学連選出理事候補を総会議案に上程する事の承認(村越副会長)

日本学連選出理事として、美濃部遼氏、湊菜々子氏の両名の立候補があり、理事候補として総会議案に上程する旨説明があった。

以上、審議の結果、第 7 号議案について出席理事総数16 名のうち賛成 15 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

報告事項

1) ランキング小委員会の設置について(高島業務執行理事)

全日本委員会が所掌してきたランキング制度は、全日本選手権の選考以外にも広く活用されるようになってきたことから、所管を全日本委員会から競技委員会に移し、競技委員会内にランキング小委員会を設置する。

2) 地域活性化活動、応援員の公募活動について(信原業務執行理事)

これまで資金的支援を主たる活動として行ってきたが、各地域の会員からの要望、活動の活発化を受け、人的支援の強化を開始する。応援要員を広く全国に呼び掛けるとともに、地域会員から応援ニーズを拾い上げ、マッチングを行う予定。主な内容は以下の通り。

- ・地域の大会などへの参加促進
- ・地域の大会、練習会、常設コース整備などの支援
- JOY やスポーツエントリー、各種 SNS での広報活動支援
- 地図の作成支援(現地調査に限らず、原図作成、修正などリモート作業を含む)
- 大会スタッフとしての支援(Mulka などの取り扱いなど技術面含む)

3) 業務執行理事報告(総務担当 今泉業務執行理事)

2025 年度活動として、全日本大会ネーミングライツに係る対応、ココヘリ導入の検討、皇室取材対応等の報告があった。

今後の活動として、財務関連の整備と、財務、人事、マーケティングに関する小委員会設置等の説明があった。

4) 業務執行理事報告(普及担当 信原業務執行理事)

地域活性化委員会、普及・指導委員会に関する2025年度活動報告があり、宮城県協会に対する支援の継続、コーチ資格の検討の継続、PC・100キロコンペとNabiTabiとの連携の検討等について説明があった。

5) 業務執行理事報告(競技力向上 鹿島田業務執行理事)

2025年下半期以降の活動について報告があり、大きな成果として、WSOC パシュート男子で石原湧樹選手が16位と、トレイル O 以外での世界選手権での歴代最高順位となった旨説明があった。

6) JOC 会長会議報告(村越副会長)

4月21日に、JOC 加盟団体会長会議が実施され、JOC から、2026年五輪、2026年アジア大会についての報告があるとともに、JOC の方向性・重点軸の説明、事前アンケートに基づくテーマ別ディスカッションが行われた

7) WSOC2026 報告(村越副会長)

2026年3月に開催されたスキーO選手権について以下の報告があった。

- ・競技は大過なく終了し、海外チームから高い評価を得た
- ・秋篠宮皇嗣妃殿下並びに悠仁親王のお成りがあり、メディアの注目を集めた。
- ・大会会計の収支は約400万円の赤字となった。要因として、IOC へのサンクションフィー(認定料)に対して収入の見込みが十分でなかったこと、シニアイベントアドバイザー(SEA)の航空運賃が国際情勢の悪化により割増となったこと、予行として開催した大会の出費が高額となったこと等があげられた。赤字の補填策として、今後5年程度をかけて北海道協会からの寄附により収支を合わせる予定。

(質疑・意見など)

- ・IOF でも、費用の問題から国際大会を主催する国が減少することを憂慮しており、国際大会開催の持続可能性の観点からも、IOF に事実と改善提案等を提示するのが望ましい。
- ・SEA の航空運賃は本来であれば IOF が負担するはず。今回はアシスタント SEA で日本側の費用負担を了承した経緯があるとしても、報告しておくのがよい。
- ・サンクションフィーの負担についても IOF で問題になっており、ワールドランキングイベントに関しては減額した例もあるため、交渉の余地もあると考えられる。

8) 安全対策の構築について(村越副会長)

2025年全日本大会(ミドル)の遭難事故を受け、以下の対策について検討を進める。2026年6月総会で意見交換を行い、関係委員会委員を集めて検討WGを設置し議論する予定。

- ①ナビゲーションスポーツのための安全ガイド改定
- ②参加者向け、基礎教育・啓発(研修)
- ③主催者向け教育

9) 令和7年度コンプライアンス研修結果報告(事務局)

2026年3月に、動画視聴後アンケートを提出する方法により、役職員34名のコンプライアンス研修を行った旨報告があった。

10) 東京2025デフリンピックの感謝状の件(野中理事)

東京2025デフリンピックへの協力に対し、JOA及びJOA会員日本デフオリエンテーリング協会に、(一財)全日本ろうあ連盟、東京都、(公財)東京都スポーツ文化事業団の連名で感謝状が贈られたことが報告された。

11) 令和 8 年度 JOA 表彰選考報告(事務局)

5 月 15 日に JOA 表彰委員会が開催され、以下の 6 氏、1 団体を第 14 期 JOA 総会後の表彰式で表彰することとなった。

北海道協会推薦 佐藤公英氏

宮城県協会推薦 菊池正昭氏

鹿島田業務執行理事推薦 尾上秀雄氏

信原業務執行理事推薦 石原湧樹氏

島根県協会推薦 松江市城北公民館 (オリエンテーリング同好会)

多額寄附拠出者 大里真理子氏 山岸倫也氏

12) AUTHENTIC JAPAN 株式会社様からの提案について(今泉業務試行理事)

ココヘリを始めとした位置情報サービスを運営する AUTHENTIC JAPAN 株式会社より、JOA に提案のあった代理店契約及び協賛について、検討状況の報告があった。

代理店契約については、定款の改正が必要であり継続して検討を行うこと、協賛については、今理事会の第5号議案の内容をふまえ、協賛募集のあり方の整理と平行して検討し、年度内に整理することが報告された。

討議・検討・意見交換

1) 日本デフオリエンテーリング協会の会員支援に関する規程への記載追加検討(野中理事、第 49 回理事会継続検討事項)

日本デフオリエンテーリング協会は小規模な会員で財政状況が厳しい状況であるが、現行の会員支援に関する規定は都道府県協会及び学連のみが支援対象となっており、協会会員であるにもかかわらず支援を受けられない。このことについて日本デフオリエンテーリング協会から改善検討の依頼があり、今年度中に規程を整備する方向で進めることとなった。

2) 岐阜県オリエンテーリング協会から JOA 総会への協議事項上程について(村越副会長)

- ・休会制度や会費の傾斜制度について(昨年総会継続協議)
- ・理事会に会員がオブザーバー参加できるようにすることについて

休会制度や会費の傾斜制度について、現在の会費支援制度と、変更した際に波及する問題点等の意見交換があり、昨年に引き続き、総会で協議を行うことが確認された。

3) 財政分析に基づく本年度の対応案(村越副会長)

財務立て直しの今年度の方針について意見交換があった。主な方針は以下の通り。

- ・大きな赤字要因となる国際大会の今後の誘致については、正味財産に十分な余裕ができた時に検討する。
- ・安全対策、社会的プレゼンスの向上やそれにとまなう積極的な事業を支えることのできる収入を確保するとともに、それにより経常収支が確実にプラスとなるような増収策を検討する。

(意見)

- ・アジアのオリエンテーリング活性化のため、AsOC/AsJYOC でのリーダーシップが日本に求められており、工夫して貢献できるとよい。
- ・国際大会の開催により、日本の大会運営の質が上がり、結果的にアジアからの大会参加者増加にもつながる可能性がある。

本日のオンラインシステム会議は、終始異状なく議題の審議を終了したことを確認した。

第52回理事会議事録 以上

2026年5月16日

公益社団法人 日本オリエンテーリング協会

議事録署名人

議長 代表理事副会長 村越 真 印

監事 齋藤 宏顕 印